

能登 いまい農場だより 4月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

中能登では、ちょうど今、桜が満開です。折しも、今日は小中学校の入学式、桜の中での入学式は思い出に残りそうです。ただ、4、5日前より気温がぐっと下がって肌寒い一日です。この桜も明日からの低気圧の通過で、あっという間の花見にならないよう願っています。

皆様、いかがお過ごしですか。

■春作業が始まっています

3月中旬以降天候に恵まれ、普段、水が溜まっている田んぼもひび割れ、堅くなりました。

このときとばかり、有機栽培田以外の田んぼに、熔成燐肥を散布しました。10アール当たり100kgの熔燐を散布するのですが、田んぼの1枚の平均区画が30アールですから300kg。20kg入りの熔燐の袋15袋



を鎌で切り、ブロードキャスター(トラクター装着のアタッチメント)のホッパーに入れるのは大変な作業になります。しかし、熔成燐肥には、燐酸分や、ケイ酸が含まれていて、根の成長を促したり、茎・葉っぱを丈夫にしますので、特別栽培米を栽培するうえで欠かせない作業になります。

播種作業を始めました。5月上旬から田植えをする予定で数回に分け、種籾の温湯処理、浸種を行います。平行してビニールハウス内の除草掃除も合わせて行っています。この時期、近くの福祉施設の人たちにも手伝ってもらっていますので、賑やかです。

■おいで祭り(平国祭)

羽咋市にある能登一宮けただいしや気多大社の祭りで、神馬や御輿、長柄鎌、騎馬神職などの行列が、羽咋市、鹿島郡、七尾市など、2市2町を巡行する祭りで3月18日から23日までの7日間にわたって行われました。その昔、大国主大神が邪神を追い払い、邑知平野を平定したという故事から、毎年この春先に行われています。能登では「寒さも気多のおいでまで」といわれ、神が民衆の中においでになり、一体となる春祭りです。この祭りを境に、農作業が一気に忙しくなります。

小田中しらくしやまみおやしんじやの白久志山御祖神社もこの巡行の順路に入っていて、近くの福田区の福俵を、気多大社の神様に奉納して祭りが行われます。

伝えによると、小田中に免田といわれる(田んぼの地名)福田の飛び地があり、そこにいくつかの沼地があったそうです。そこには大蛇が棲んでおり、毎年、年頃の娘を人身御供としていました。ある年、その順番になった家の人困り果て、小田中の神社にお参りして、お願いしたところ、気多大社の大国主大神に伝わり、大国主大神が大蛇を戸隠においやったことから、お礼として、毎年お米を奉納することになったとか。

米俵といっても、祭りに使われるのは、3升(1升は1.5kg)の米俵です。福田区の人たちは、この福俵を伝承するため大変苦勞していると聞きます。床の間に飾れば、結構引き立ちます。